

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770800498		
法人名	株式会社 ジェイバック		
事業所名	グループホーム もも太郎さん(喜多方)1階		
所在地	福島県喜多方市松山松村松字上原22番地		
自己評価作成日	令和2年9月5日	評価結果市町村受理日	令和3年1月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3
訪問調査日	令和2年10月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

理念である「自由」「家族の絆」を軸に接遇スローガンである「あなたの笑顔は私の鏡です」に沿った笑顔が引き出せるように取り組んでいます
地域の行事に参加したりボランティアに来ていただき交流を深めています
職員の経験や能力に合わせた研修を計画しケアの向上に努めています
人生観や価値観を尊重し安心して自分らしく生活が出来るように取り組んでいます
食事前の嚥下体操や軽体操、手指のアルコール消毒を実施しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1.運営推進会議へ家族・区長・民生委員・地域包括センター職員・役所職員等が出席しており、各委員から地区の様々な情報提供・講座の講師紹介・ボランティアの紹介等地域と事業所の橋渡しに協力を得ており、事業所への大きな支援につながっている。
2.入浴の声掛けから介助、着替えまで、同じ職員が1対1で対応し、ゆったりと安心して入浴できるよう支援している。拒否のある利用者も気持ちよく入浴できるよう、声掛けの仕方やタイミングを工夫している。本人の希望や排泄状態に応じて、毎日入浴する利用者もいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	☐ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	☐ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	☐ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	☐ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	☐ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	☐ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	☐ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	☐ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅰ.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	運営理念のほかにユニット毎に介護理念があり玄関や事務所に掲示し職員は意識して実践につなげるようにしています。	法人理念をもとに、事業所独自の理念を作成し目につく場所に提示している。職員会議や個別面談で理念を実践に活かしているか話し合い、より身近なものとなるよう取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事(敬老会、夏祭り)に参加して交流を深めるようにしています。 施設外で会ったときも挨拶や世間話を心がえています	地域の夏祭りでは太鼓台が事業所の中に入って利用者と交流し楽しみな機会になっている。敬老会への招待状が届き参加している利用者もいる。また、利用者の友人が散歩を兼ねて訪問し、多くの方とコミュニケーションをとっているが、現在はコロナ禍で面会を休止している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1回開催される認知症カフェをお知らせし参加を募っています			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回開催の運営推進会議には地域包括センター職員、区長、民生委員や市役所職員、家族会代表の方々に参加していただきご意見やアドバイスを頂いています	定期的に区長・地域包括スタッフ・市職員・民生委員・家族代表等の参加で開催している。委員から様々な視点からのアドバイスがあり、職員会議等で検討し実践に繋げている。今後も委員に避難訓練等にも参加頂き、訓練から見えるアイデアや工夫点等をサービスの向上に活かす計画を立てている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	生活保護受給者入居受け入れにあたり市町村に相談やお願い、介護保険で不明な事の確認など高齢福祉課や社会福祉課と協力関係を築くように取り組んでいます	生活保護受給者の入居もあり、高齢福祉課・社会福祉課との連携は密であり、協力体制が構築されている。また、認知症カフェの開催にあたり、市からテーマ設定などの協力があり、良好な関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に1回身体拘束防止会議を実施し入居者様おひとりお1人に身体拘束にあたるようなケアはしていないか確認しています	事業所研修年間計画に、身体拘束廃止の研修を3ヵ月に1度盛り込み理解を深め、全職員が身体拘束をしないケアを実践している。また、成年後見人制度利用の入居者があり、権利擁護の観点から多くの学ぶ機会を得ている。日中玄関の施錠はしていない。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束廃止に関する指針を職員ひとり1人が理解し身体拘束防止委員により取り組んでいます運営推進会議に議事内容を報告しています		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見人制度を利用されている方がおり日頃のケアや後見人との連携を通じ学ぶ機会としています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	改定時はご家族様には事前に文章で趣旨等連絡してから来設していただき説明を行いご理解 納得されてから契約していただいています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関ホールにご意見箱を設置している。面会時に入居者様の様子をお伝えしご意見、ご要望を確認させて頂いています	玄関に意見箱を置く他、年2回花見や蕎麦会を行った後、家族会を実施し意見を聞く機会を持っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行う職員会議や申し送り時などに職員から意見や提案を聞く機会を設けている。	申し送りや職員会議で出た意見や仕事に対するアイディアについて、話し合い実践に活かしている。また、管理者並びに法人本部面接を実施し職員の意見を聴く機会を設け、検討し運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個別懇談や職員会議で職員の困っていることや要望等を話し合っ職場環境の整備に努めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の能力や経験年数により研修計画をたてています。資格取得が出来るように会社が費用を一部負担したり休日を優先して取得できるようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会主催の勉強会に参加したり意見を交換しサービスの質向上に努めています		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込みや実態調査時に生活歴、フェイスシート、アセスメントシートを取り困っていること不安なことに耳を傾け本人が安心して暮らしていける関係づくりに努めている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	居宅から相談があった時点から担当ケアマネと情報を共有しご家族様の困っている事、不安や要望が話しやすくする雰囲気作りをして安心出来るように努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	3ヶ月毎にご本人とご家族様のご意向を聞いてその時に必要な支援を見極めて対応に努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人が出来る事は意欲的に関わっていただき職員はありがとうございました。助かりました等感謝の言葉を伝えることで一緒に暮らす者同士の関係を築いています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月の近況報告で様子をお知らせし受診結果の報告や特変時の連絡をし対応をご家族様に一緒にしていただくなど連携をしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	居室にイスとテーブルをセッティングしお茶を提供させていただいて面会者とゆっくり落ち着いてお話しができるようにしています	面会時は居室に椅子・テーブル・お茶を運び、ゆっくり話せる環境を整えている。近所には四季折々に花を「飾って」と持参下さる方もいる。また、利用者の友人(現在コロナ禍で休止中)は、事業所を散歩コースに入れ毎日寄り、お茶を飲みながら利用者と会話を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様が一緒に出来るようなレクリエーションをしたり職員が間に入り利用者様同士が会話できる関係作りをしています 利用者同士の関係も把握して席の配置をしています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に移動される場合必要な情報提供し移動後も安心して生活できるようにいつでも相談していただけるよう関係作りを心掛けています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	特別な状態変化がみられない場合は3ヶ月に1回プラン見直しの為希望、意向を把握してプランに反映させています 意思表示困難な場合はモニタリングの様子から意向をくみ取り検討しています	本人の思いについては日常会話や行動の中から聴き取っている。言葉での意思表示が困難な利用者についても、日々の暮らしの中の表情や行動から職員が感じたことについて話し合い、思いを汲み取っている。暮らし方の希望についても同様に、家族からも意見を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	申し込み時や実態調査時にご本人やご家族様から教えていただき把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケア記録、健康チェック表や申し送りノートに記載したり夜勤者と日勤者の申し送りで職員全員に周知するようにしています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	1ヶ月毎に支援計画がご本人やご家族の望む支援に繋がっているのか職員で話し合い状態変化がみられたときは支援計画を変更、追加するなどしています	3カ月に1度本人・家族からの意向を確認しながら介護計画書を作成している。また、モニタリングを毎月実施し、職員の意見やアイデアを活かし、介護計画と現場との乖離がないよう考慮している。状態に変化があった場合はケア会議を開催し状態に応じた介護計画に変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケア記録は個別に記入し日勤帯、夜勤帯と職員同士で申し送りをしています 大事な情報は申し送りノートに記入し全員確認するようにしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況をケアプランに反映させ柔軟に支援を行っています 緊急受診対応や状況によって必要と思われる物品の購入などご家族と連絡を取り支援しています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節毎の花鑑賞や季節や気温によって外気浴や散歩など行っています 傾聴ボランティアや相談員との会話で不安や困った事があったら聞いていただいています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療していただいておりますが、ご家族が受診対応される場合は状態報告書に職員が記入し主治医ご家族と連携をとり適切な医療を受けられるように支援しています	入居時に受診支援について説明し、希望があった場合は訪問診療に切り替えている。3ヶ所の医療機関の訪問が月1回ずつあり、専門科への受診や入院が必要な場合には主治医が紹介状を作成し、適切な医療が受けられるよう連携している。家族対応の場合には事業所で状態について書面を作成する他、市内であれば職員が受診対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は毎日の気づきや心配な事を状態報告書に記入し定期受診時に適切な医療が受けられるように支援しています		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には入院に至るまでの状態報告書を提供し退院前にはご家族、主治医、看護師、連携室とカンファレンスを行い安心して施設に戻れるように連携しています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取り体制は整っていませんが医師や看護師、医療連携室やご家族と連携しながら情報を共有して取り組んでいます	看取り可能な医療体制が整わず、看取りを行っていないが、終末に近い状態まで住み慣れた事業所で介護している。訪問診療の主治医や入院先の病院と連携し、終末期を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDも備えており応急処置は救命救急講習を2年に1度実施しており現在調整中です		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回総合避難訓練（1回は消防署立ち合い）の他に毎月避難訓練を実施しています 時間も日中と夜間、地震の時と想定して対応できるようにしています	年2回総合訓練を行っており、日中・夜間の火災、地震の想定訓練も行っている。消防署立ち合いの訓練時に職員全員が水消火器の訓練を行う他、スモークを焚き煙体験も行っている。また、毎月第3土曜日を避難訓練の日とし、訓練や備蓄の管理を行っている。非常時持ち出し袋には、利用者家族の連絡先や処方薬の一覧等を随時更新し入れている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	教育委員が中心となり接遇マナーについて研修を行い人格の尊重やプライバシーを損ねない対応につとめています	入職時、マニュアルに沿って接遇マナーやプライバシーに配慮した対応について学んでいる。また、申し送りや職員同士で利用者について情報共有する際には、プライバシー保護に十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	飲み物や入浴時間、車いす介助の利用者は居室に戻る時間等確認して自己決定していただいています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事、お茶、レクリエーションは声掛けしますがご本人の体調やペースを大切に希望にそって支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回美容室で訪問していただき希望のスタイルを確認しながら支援しています 洋服はご自身で選んでいただき天候や組み合わせによってはアドバイスさせていただきます		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	ホール前の庭に野菜を栽培して日々成長していく様子を楽しみながら食材に取り入れています 季節の行事には利用者からリクエストいただき取り入れて楽しんでいただいています	職員が献立を作り、近くのスーパーで食材を用意してもらっている。庭で育てた野菜や職員が差し入れる野菜・果物をメニューに取り入れている。月1回は希望を取り、特別メニューにしている。寿司を取ることが多いが、新そば等季節の食も楽しんでいる。食事の準備の際には、皮むき等の下ごしらえを利用者と職員が一緒に行っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分摂取量は一人ひとり記録しているので摂取量減少にならないように一人ひとりの嗜好や状態に応じて支援しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの状態に合った歯ブラシで自立や介助にて清潔を心掛けています		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中、夜間帯の排泄パターンを把握し声掛け誘導を行いトイレで排泄していただけるようにしていますが夜間立ち上がりや保持が困難な方はベッド上で確認と交換をトイレでの転倒防止を優先させていただいています	気持ちよく暮らせるよう、トイレでの排泄を支援している。一人ひとりの排泄パターンを把握し声かけをしている。夜間は、歩行や立位の状態に応じて日中と支援の仕方が変わる利用者もいるが、ケアプランに盛り込み、家族に説明し、同意を得ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員は利用者一人ひとりの便秘を把握、午前と午後の軽体操への参加を促し、なるべく下剤に頼らない様 オリゴ糖、ビフィズス菌提供し自然排便できるように取り組んでいます		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に1日おきに入浴していただいています が失禁で汚れた、ご本人が入浴したいと要望が聞かれた場合は柔軟に対応しています	1対1で、入浴の声掛けから介助、着替えまで、同じ職員が対応し、ゆったりと安心して入浴できるよう支援している。本人の希望や排泄状態に応じて、毎日入浴する利用者もいる。拒否のある利用者も気持ちよく入浴できるよう、声掛けの仕方やタイミングを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調を確認しながら休息の声掛けしたり居室の温度や湿度確認しながら調整し安眠できるようにしています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	内容について確認出来るように薬事情報は一定の場所にファイルして確認しやすくしています。 新しく処方された場合副作用が現れないか様子観察をして薬剤師や主治医と連携しています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの出来る事、楽しんでもらえる事を把握し活力のある日々を過ごせるように支援しています		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の行事(運動会、敬老会、お祭り)の参加や季節毎の花鑑賞、外食支援をしていましたが現在コロナウイルス感染防止から中止になっています。落ち着き次第外出支援を取り入れたいと思います	新型コロナウイルス感染症の影響で自由な外出ができない状況だが、庭の草むしり、野菜の収穫等で外に出ている。これまでは地区の行事の他、桜や菖蒲、ひまわり等の花を見に行き、外で食事を取っていた。状況が落ち着いたら、外食等の外出支援を計画予定である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持されている方はいませんが欲しいものや必要なものは立て替えて使えるように支援しています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様のご希望があれば電話の取次ぎの支援をしています ご家族様には携帯のムービーで動画撮影し様子をお伝えしました		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ちぎり絵や折り紙などで利用者様と季節に合った壁紙作成や窓からの景色は山や田んぼなので季節感は十分に感じられます 居室やホールの温度、湿度は時間毎に確認し調整するようにしています	居間の大きい窓から自然光が入るほか、庭や田んぼ、磐梯山がよく見え、季節の変化を楽しんでいる。室温や湿度を温湿度計で管理しており、今年は感染症予防のため、ウイルス対応の空気清浄機を新調した。定期的に手すり、テーブルを消毒している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを置いて誰でもくつろげる環境と気の合った利用者同士が談笑できるテーブル配置にしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	ご家族様が持参された絵手紙や誕生日プレゼント以前作られた手芸品や飾り物、家族写真など配置して落ち着いて過ごせるように配慮しています	居室にはベッド・小タンス・クローゼット・カラーボックス・テレビが備え付けられている。自宅での過ごし方や起き上がりの方法等を確認し、居室の配置を工夫している。量と布団で寝起きする利用者もいる。家族の手紙や写真、自分の作品等を部屋に飾り、居心地のよい空間となるよう支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室、トイレ、浴室まで動線に手すりをつけて安全に移動できるようにしています 洗濯物干しやたたみなど腰かけて作業できるように支援しています		